

埼東よみうり

2016年(平成28年)7月15日(第435号)月1回発行

手 備えの大切さを学ぶ

幸 東武団地自治会 防災避難訓練

幸手市の東武中央公園で6月5日、幸手東武団地自治会が「自主防災避難訓練」を行い、住民130人が参加しました。

4区に分かれた住民は防災用品を積んだリヤカーや実際に人を乗せた車いす、担架を併い公園に集合しました。そして幸

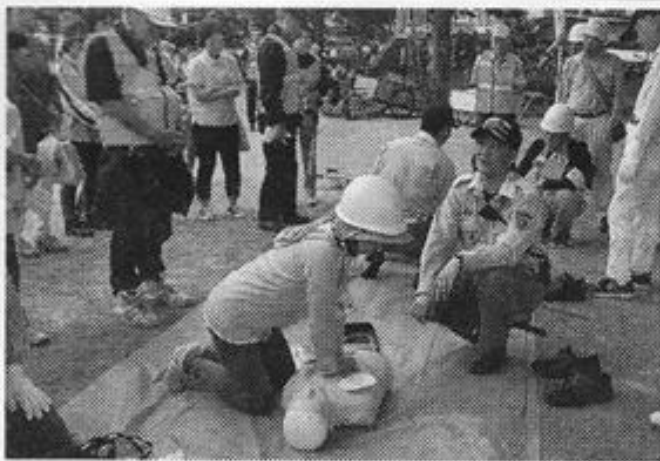
手消防署の協力
で、煙体験、AED

D(自動体外式除細動器)の操作、
消火器の扱いを体験しました。

参加者は、煙の中を避難するとき
は口と鼻を布で覆って姿勢を低くして歩くことや、落ち着いて行動し、
周囲に大声で応援

を求めることの大切さを学びました。また、常備している消火器の種類と有効期限の確認をしておくことも忘れないようにとアドバイスがありました。実行委員長の宮川邦彦さんは「いつ、どこで起きるかわからない災害には日頃の備えが大切です」と語りました。

参加した戸倉あき代さん(34)は「年1回の訓練でも近所の人と顔を合わせる機会になるので大切です」と述べ、山野井友和さん(52)は「煙体験は装置が必要なので貴重な体験でした。たくさん住民の参加があり、良い訓練になりました」と話しました。



AEDの操作を学ぶ参加者